

第31期社会教育委員会議 提言書

ハイティーン世代を地域につなぐ

第31期（平成29年6月1日～令和元年5月31日）

富士見市社会教育委員

	氏名	所属
議長	搦木 道代	中学校PTA副会長
副議長	本間 雄一	地域子ども教室
	荒川 照子	元民生児童委員
	板橋 三宏 ※平成31年3月末まで	勝瀬小学校長
	岡野 雅一	淑徳大学教授
	京谷 恵子	元公民館運営審議会委員
	佐々木 真理子	公募
	古澤 立巳	資料館市民学芸員
	吉田 徹子	地域子ども教室
	吉田 廣子	富士見市文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	現状	3
3	現実的に目指せる状態	6
4	おわりに	12

【資料】

- ◇ 会議日程

1 はじめに

第31期の社会教育委員会議では、前半に富士見市教育委員会生涯学習課の施策で、平成29年度より始まった家庭学習応援事業のイブニングスクール（中学3年生対象）およびサタデースクール（小学5年生対象）について視察を行った。またその中で、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課より、県の社会教育に関する情報提供を得る機会もあり、事業の今後の展開や方向性について、次年度以降に活かせるよう、生涯学習課に提言を行った。

この取り組みの成果もあり、委員の活発な発言を引き出せる土壌ができたところで、第31期のテーマづくりに取りかかった。

今期のテーマを考えるにあたり、高齢者の活動の場、公共施設の活用方法、富士見市教育振興基本計画の中の社会教育・生涯学習など、様々な分野が挙げられた。また、第29期は『親の学びや育ちを応援する学習機会の充実方策』、第30期は『地域でできる子どもに向けた支援』と保護者や子どもに焦点が当てられている中で、中高生についての話題になった。

「役割を与えると、とてもよく動いてくれる。しかし、なかなか地域の活動に出てきてもらえない」「中高生はどこにいるのだろうか？」と中高生の居場所について、素朴な疑問が出てきた。

社会教育委員会議として、教育委員会に幅広く提案・助言を行う立場であることから、富士見市の生涯学習をより一層充実させていくため、「若者」について考えることにした。

しかし、ひと口に「若者」と言っても国・行政省庁・自治体によって「若者」の定義が実に幅広く、捉え方も様々であった。会議で話し合った結果、大人の私たちからは、どこで何をしているのかよく見えてこない故に、研究できる良い機会になるという共通認識をもち、第31期社会教育委員会議は、富士見市外へ行動範囲が広がる16歳から成人（平成30年時点では満20歳を成人とする）の一手手前の19歳までの若者、いわゆる「ハイティーン（10代後半）世代」を対象とすることに決定した。

ハイティーン世代といっても、学校やアルバイトの帰属、また、向上心の意識の有無など様々であり、それぞれ環境や生活スタイルは異なる。また、友達との関わりをととても重要視している側面もあれば、友達以外の人や社会との関わりを自ら遠ざけてしまっている側面もある。多様性に富んでいるのか、画一的なのかということも議論になる中、ハイティーン世代の実態に理解を深めながら、会議を進めていった。

また、富士見市子ども未来応援センター所長に会議出席を依頼し、市内のハイティーン世代の現状について情報提供いただく中で、ひきこもりやニートにならない（させない）ために地域で見守り・つなぎ・育てていくという認識を持たせた。

行動実態や考え方の見えにくいハイティーン世代を対象としたことで、社会教育委員の一人ひとりが、その世代に寄り添って考えられる機会を得られたと感じている。

ハイティーン世代は、中学生までは主な行動範囲が富士見市（地元）にあり、地域での活動も積極的に行っている姿がみられる。一方、中学校を卒業すると、行動範囲が変わり、生活スタイルも大人や地域から見えにくくなることから、「ハイティーン世代を地域につなぐ」をテーマとした。提言することで、世代の「地域の後継者」として、育成していけるのではないかと期待したい。

2 現状

対象がハイティーン世代に決まったが、職場・家庭・地域など関わることもある委員であっても、行動範囲や活動内容などを調べていく事は容易ではなかった。また、委員自らのハイティーン時代と背景が全く異なることから、考え方や人との関わり方を調査することも同様であった。

現代のハイティーン世代が育ってきた社会動向を考えると、人口構造の変化、長期的な経済の低迷、国際化の進展やインターネット環境の普及による SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用環境などに大きな変化があった。それらの変化による対人関係のあり方が委員の体験とは異なり、想像が難しい部分があり、情報収集・研究は多岐に渡るものとなった。

1 ハイティーン世代が地域にどのように関わっているか

ハイティーン世代に聞き取り調査を行ったところ、大きな特徴として下記の点が挙げられた。

①行動範囲

遊びに行く場所は、「富士見市にららぽーとができたのだから、買い物だってららぽーとに行くのではないか」と思う大人の思い込みとは別に、池袋や渋谷へ出かけるなど、電車に乗って都内に出る意見があった。活動の行動範囲が、中学校までは地元中心だったのに対し、ハイティーン世代になるにつれ、市外へ移動する傾向がみられた。

②興味関心

「ららぽーとは混むから嫌だ」と、あえて行かないことを選択するハイティーン世代もあり、その背景には、家と学校の往復に追われている現状があった。休みの日は、自分の時間を有意義に大切に過ごし、地域で人との関わり方の興味関心のあるところに、自分の時間を費やすという姿も見られた。

③公共施設の利用

一部の質問したハイティーン世代の中には、「公民館などの公共施設を利用することはあるか」と聞いたところ、利用はないとの回答が得られた。

一方で、公共施設でもフリースペースが広く取られている場所では、勉強に来ているハイティーン世代が毎日のようにみられる現状もあった。公共施設の利用は、一部に限られているようであった。

【まとめ】

中学校までは地域にいたため、友達や先輩後輩などの関係は地元でありつつも、高校進学を機に行動範囲が広くなり、同世代のつながりが広がる一方で、地域（地元）との関係が次第に薄れていってしまう様子が伺えた。

また、学校だけでなくアルバイトや塾、サークルなど実に時間に余裕がない生活を送っている一面もあった。

全体的に聞き取りをして感じたことは、今現在において、興味（趣味など）や関心（進学や将来について）のあること、親交の深い友人が、そのハイティーン世代の居場所であるように感じた。

休日に家にいることはあっても、残念ながら地域（地元）に居場所を求めていることは少ないと感じられた。

2 地域がどのようにハイティーン世代に関わっているか

①地域行事への参加

一部ではあるが、地域行事に参加しているハイティーン世代を見かけることがある。参加形態は、部活動やボランティア活動、サークル活動の一環で行われるイベントなど様々である。まつりなどでの吹奏楽部の演奏出演や、運営ボランティア要員として、団体で参加する場合などが挙げられる。

また、両親や祖父母、近所の大人に勧められることで、地域イベントの地区体育祭などに参加する場合で、これは個人での参加も見られる。

しかし、ほとんどの場合は、イベント主催者等からハイティーン世代への積極的な声掛けなどがあったようである。

②コミュニケーション

大人の側からすると、定年退職をきっかけとして、地域活動を始めるとは往々にしてあるが、それでも地域に溶け込んでいくことはなかなか容易ではないのが現実としてある。大人同士、同世代の仲間を見つけ、そこから関係を構築している。

年代の枠を超えての関係となった場合、ジェネレーションギャップもあり、言葉ひとつ、声掛けひとつとっても難しく、なかなか地域の大人がハイティーン世代とコミュニケーションを取ることは、容易ではない。コミュニケーションの壁がある故に、ハイティーン世代を大人たちが敬遠してしまうという様子も伺えた。

【まとめ】

ハイティーン世代が小中学生の頃は、役員の親と一緒に、PTA活動や子ども会育成会、様々な地域イベントに参加していたと思われるが、進学すると、部活と勉強に追われ、いつの間にか地域のイベントから遠ざかってしまう印象がある。中学校までは、学校を通じ、何かしらのつながる手段を持ち得ることから地域活動の参加がみられるが、その後については、地域がハイティーン世代への伝達手段を持ち得ないことから、周知活動がなされていない現状があった。

また、ベースとなる地域自体がハイティーン世代の受け入れ態勢を整えていない、活躍の場を作っていない、関わりをもつ積極的な姿勢があるとはいえない様子も伺えた。

3 現実的に目指せる状態

市内地域では高齢化が進み、大人であっても自分のことだけで精一杯な人が増えていることや、さらに介護（介助）が必要な人も年々確実に増えている現状がある。それを踏まえ、世代をこえた「共助」の部分がこれからの社会では不可欠と思われる。そこには必ず若者の力が必要であり、ボランティア活動などを通して、地域の力になってほしいと考える。人とのコミュニケーションを、地域で活かしてほしいため、どのようにすれば良いのかを考えた。

方策①	若者目線で町おこしを考える
方策②	恵まれた自然環境を生かす
方策③	市主催の各種イベント・町会など、ハイティーン世代に役割分担を与える機会を設ける
方策④	公共施設と高校・大学とのコラボによるイベント等の実施
方策⑤	「食」を通じ、世代を超えた地域の交流を図るための、子ども食堂活動への参加
方策⑥	小中学校PTA主催の「バザー（まつり）」に、卒業生のハイティーン世代向けイベントを盛り込む
方策⑦	中学校との連携により卒業後も地域活動に参加できる機会の創出
方策⑧	小・中学校からの伝統芸能指導と後継者育成
方策⑨	ひきこもり傾向にあるハイティーン世代への関わり

方策① 若者目線で町おこしを考える

【内容】

- ・富士見市の良いところを生かし、それを利用して、若者のアイデアを実現させていく。
- この富士見市には、大型商業施設、大きな病院、立派なホール、図書館、プール等が存在する。これらを利用して何ができるか考える。また、都心に近く大変便利な場所であり、農産物も豊富で特産と呼べるものもたくさんある。それらの特産物を上手にPRしたり、創意工夫によって、新しい商品(メニュー)を開発して、販売までやってみる。あわせて、伝統工芸を広める工夫・アイデアもあるとよい。

【効果】

活動とともに地域とのつながりも生まれ、時間とともに絆が強くなり、「共助」に発展していける。地域が顔見知りの人々でつながり、安心して生活できるようになる。

方策② 恵まれた自然環境を生かす

【内容】

- ・若者のアイデアで、市内を流れる川や国指定史跡水子貝塚公園などの自然環境を活用する事業を企画する。
- ・若者による民家にある柿やみかんの「果物もぎ援助」など。
 - 庭木の実が熟し、地面に落ちてしまう。その前に採ればよいが、高齢者世帯では難しいケースも見受けられる。「木登り」などの遊びを含めた形で、若者が取り組める企画が好ましい。

【効果】

若者がやりがいと生きがいをもって、気軽に集まれる場所ができる。また、地元の良さを再確認し、自分の故郷を誇りに思い、若者が力を発揮できるチャンスをつくる。

方策③

市主催の各種イベント・町会など、ハイティーン世代に役割分担を与える機会を設ける

【内容】

- ・夏祭り等において、ハイティーン世代が企画運営するブースを設ける。
- ・各種イベントなどにおいて、司会進行役を任せる。
- ・子ども大学など、ハイティーン世代よりも年下の子どもが集まる企画において、子どもの指導・世話役等を与える。

【効果】

単なる大人の手伝いではなく、責任ある部分を任せ、企画運営を行う中で、ハイティーン世代の持ち味が十分に発揮される。

一人だけの参加ではなく、仲間を呼んでもらうことで「複数人」での参加を見込むことができる。町会行事という安心感から協力の理解が得やすい。

方策④

公共施設と高校・大学とのコラボによるイベント等の実施

【内容】

- ・市内公共施設（公民館・交流センター・コミュニティセンター・図書館・資料館など）と、ハイティーン世代が通う学校が、協働して地域ボランティア活動や地域住民へのサービス活動（機会・場所・人材など）の提供。

【効果】

公共施設の特性や独自性を考えると、必ずしも学校教育に馴染むとは限らない。しかし、地域の活性化には、「若者の力」の果たす役割が大きい。また、様々な地域から学生が来ている高校や大学でも、所在する地域に貢献することは、学校にとって大きなメリットがある。社会教育施設と学校の協働によって、ハイティーン世代が地域貢献できる場づくりを進める。

方策⑤

「食」を通じ、世代を超えた地域の交流を図るための、 子ども食堂活動への参加

【内容】

- ・食を作ることに参加する（買い物・調理・片づけなど）。
- ・参加によって食に関する技術を身に付ける。
- ・学習指導をしたり、一緒に勉強したりする。
- ・子どもたちの遊びの相手になる。
- ・子ども食堂の運営側に参加する（計画・広報など）。

【効果】

子ども時代の利用者がハイティーン世代になった時、利用者でありつつ主催者側にもなっていくことで、子ども食堂の活動が継続性を加え、厚みをもっていく。

また、ハイティーン世代がボランティアとして参加することで、孤食になるリスクを防げる。一緒に食事をするすることで、地域の人と交流ができる。

方策⑥

小中学校PTA主催の「バザー（まつり）」に卒業生の ハイティーン世代向けイベントを盛り込む

【内容】

- ・模擬店として出店する。
- ・ダンスなどの舞台出演者として参加する。

【効果】

有志として募った場合、卒業した母校だと足も向きやすい。

また、PTAやハイティーン世代、在校生の世代間交流が図れる。

方策⑦

中学校との連携により卒業後も地域活動に参加できる 機会の創出

【内容】

- ・自分たちの住む地域を対象にした清掃活動や防災活動、防犯活動など町会などとも連携しながら、活動への参加を呼びかける。

【効果】

町会や地域で働く中高齢者とのつながりができる。中学校卒業後、20歳になるまでの取り組みとなるが、4年間の実績がその後の地域活動への参加の糸口を生み出すものと期待したい。

方策⑧ 小・中学校からの伝統芸能指導と後継者育成

【内容】

- ・大人から子どもへの声掛けや、ボランティアへの積極的な参加をすることで、子どもに少しでも伝統芸能に対し、興味関心をもってもらう。
- ・地域の文化財として伝承すべき獅子舞や囃子連に関わる。

【効果】

小中学生から後継者育成（意識づけ）を行うことで、ハイティーン世代になった時、保存団体の次世代を担う中核となって活躍できる。

また、地域の文化財が貴重なものであることを理解し、伝統芸能に関わることに誇りを持てるようになる。

方策⑨

ひきこもり傾向にあるハイティーン世代への関わり

【内容】

- ・ 家族の協力に基づく訪問。
- ・ 時間をかけて傾聴することでの悩みや不安の解消。
- ・ 地域や専門機関の連携による情報提供。

【効果】

早い段階で気づくこと、変化の兆候を見逃さないことで、地域社会に出る機会を見出す。

4 おわりに

第31期の議長という大役を仰せつかり、大変不安を抱えながらのスタートではありましたが、会議では社会教育委員一人ひとりが、一回は発言できるように務めさせていただきました。とても難しいテーマでありましたが、社会教育委員のみなさんに支えられ、ここまでこれましたこと、とても嬉しく思います。また、貴重な経験をさせていただきました、ありがとうございました。

(搦木)

今期は副議長として、「ハイティーン世代」の地域活躍について協議を行ってきました。内容はともかく、本会議でこのようなテーマに触れたこと自体が意味のある事であったと思います。私は、「3期6年」務めさせていただきましたが、改めて重要な会議であると感じました。大変お世話になりました。

(本間)

第31期の社会教育委員会会議を通して、改めて地域で子どもを育てることの重要性を感じました。社会総がかりで子どもを教育していくことの重要性が叫ばれる中、本会議が、今後ますます重要になってくることを感じています。

(岡野)

18歳に選挙権が与えられました。それだけの判断力と実行力を期待されることであり、実際に、たくさんの力と可能性を持っていると思います。彼らが身近なところで力を発揮して、人生の先輩後輩と共に、より良い富士見市をつくってほしいと切に願います。

(京谷)

今回のテーマは特に難しく「ハイティーン世代」の実態と方策も見つからないまま過ぎてしまう事もありました。しかし、他の委員さん達との様々な意見交換の中で提言書に関わることができ、とても有意義な2年間だったと実感しています。

(荒川)

日頃気になけなかつたハイティーン世代に焦点を当てることにより、彼らの生活が目にとまるようになりました。このハイティーン世代を、色々な角度から継続的に地域社会に取り込めるような方策ができれば、生産年齢終了後の第二の人生を踏み出すときに、自然に地域社会へ溶け込めるという展望が出てきました。

(佐々木)

これからの地域活動に、「ハイティーン世代」の活躍が大きな力となることを、大人が認識し、その活躍の場と機会を作っていく必要があると思いました。これから「大人である今の自分に何ができるか？」と、考えるきっかけとなりました。

(吉田徹子)

今回の課題は具体例をあまり知らず、ハイティーン世代に関わる機会が少ないこともあり、大変難しい内容でした。しかし、町会や文化協会に関わっていることもあり、祭りのイベントへの参加、防災訓練の協力、伝統芸能の普及活動など、様々な活動がハイティーン世代と共に広めていけたら良いと考えています。

(吉田廣子)

ハイティーン世代に活躍の場を与えることは、地域の中でのコミュニケーションとして大変重要になってきています。これからは、ハイティーン世代をうまく取り込んでいく工夫・アイデアが必要だと強く思います。

2年間委員をやらせていただき大変勉強になりました。自分の知らないところで、いろいろな立場の人が、地域社会のために考え、話し合っ、活動していることに驚きました。ありがとうございました。

(板橋)

地域活動や地域教育の中での「ハイティーン世代」の存在感は、地域に大きな活力をもたらすことでしょう。私は、今期の社会教育委員会議での議論によって、さらにそのことを確信させられました。ぜひとも、提言書で提唱した方策が、一つでも多く実践につながることを願いたいと思います。

(古澤)

【資料】

◇会議日程

第1回	議題：委嘱状交付式 日時：平成29年6月29日木曜日 午後6時30分～8時 場所：みずほ台コミュニティセンター
第2回	議題：家庭学習応援事業について 日時：平成29年9月14日木曜日 午後7時～9時 場所：鶴瀬公民館
第3回	議題：家庭学習応援事業について 日時：平成29年10月25日水曜日 午後7時～9時 場所：水谷公民館
第4回	議題：家庭学習応援事業について 日時：平成29年12月6日水曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第5回	議題：家庭学習応援事業について 日時：平成30年1月24日水曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第6回	議題：家庭学習応援事業報告と第31期のテーマについて 日時：平成30年3月5日月曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第7回	議題：第31期のテーマについて 日時：平成30年4月10日月曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第8回	議題：ハイティーン世代の実態について 日時：平成30年5月24日木曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第9回	議題：ハイティーン世代の実態について 日時：平成30年7月12日木曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室
第10回	議題：ハイティーン世代の実態について 日時：平成30年9月5日水曜日 午後7時～9時 場所：教育委員会 会議室

第11回	<p>議題：ハイティーン世代の実態について</p> <p>日時：平成30年10月15日月曜日 午後7時～9時</p> <p>場所：教育委員会 会議室</p>
第12回	<p>議題：ハイティーン世代の実態について</p> <p>日時：平成30年12月3日月曜日 午後6時～8時</p> <p>場所：みずほ台コミュニティセンター</p>
第13回	<p>議題：ハイティーン世代の実態について</p> <p>日時：平成31年1月28日月曜日 午後6時30分～8時30分</p> <p>場所：教育委員会 会議室</p>
第14回	<p>議題：ハイティーン世代の実態について</p> <p>日時：平成31年3月14日木曜日 午後7時～9時</p> <p>場所：教育委員会 会議室</p>
第15回	<p>議題：提言書まとめ</p> <p>日時：平成31年4月17日水曜日 午後7時～9時</p> <p>場所：教育委員会 会議室</p>
第16回	<p>議題：提言書まとめ</p> <p>日時：令和元年5月21日火曜日 午後7時～9時</p> <p>場所：教育委員会 会議室</p>